



平成 23 年 10 月 11 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 大 庄  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 平 辰  
(コード番号 9979 東証第1部)  
問 合 せ 先 専 務 取 締 役 管 理 統 括 本 部 長 水 野 正 嗣  
(TEL 03-5764-2229)

## 特別損失の計上および業績予想の修正に関するお知らせ

当社の平成 23 年 8 月期決算において、下記の通り特別損失の計上を行いますので、その概要をお知らせするとともに、平成 23 年 8 月期（平成 22 年 9 月 1 日～平成 23 年 8 月 31 日）の業績予想（連結・個別）を下記の通り修正いたします。

### 記

#### 1. 特別損失の計上

当社は、平成 23 年 8 月期において下記の通り特別損失の計上を行います。

##### (1) 連結

合計で 3, 132 百万円の特別損失を計上いたします。詳細は下記の通りです。

- ①減損損失 1, 450 百万円  
最近の業績動向及び今後の見通しを踏まえ、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づく、店舗設備資産等の減損処理であります。(該当店舗は 96 店舗)
- ②資産除去債務 697 百万円  
「資産除去債務に関する会計基準」及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」の適用に伴い、過年度相当額の資産除去債務であります。
- ③固定資産除却損 548 百万円  
店舗改装等に伴う資産の除却・解体工事費用であります。
- ④店舗閉鎖損失引当金繰入額 148 百万円  
閉鎖予定店舗に係わる賃貸借契約に基づく違約金及び空家賃等についての引当金であります。
- ⑤訴訟損失引当金繰入額 78 百万円  
係争中の訴訟において、将来発生する可能性のある補償費用についての引当金であります。
- ⑥その他 207 百万円

##### (2) 個別

合計で 3, 932 百万円の特別損失を計上いたします。詳細は下記の通りです。

- ①減損損失 1, 283 百万円  
最近の業績動向及び今後の見通しを踏まえ、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づく、店舗設備資産等の減損処理であります。(該当店舗は 94 店舗)
- ②資産除去債務 658 百万円  
「資産除去債務に関する会計基準」及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」の適用に伴い、過年度相当額の資産除去債務であります。
- ③貸倒引当金繰入額 579 百万円  
当社子会社に対する債権についての引当金であります。
- ④投資有価証券評価損 523 百万円  
当社子会社である(株)イズ・プランニング及び(株)壽司岩に対する株式評価損であります。
- ⑤固定資産除却損 470 百万円  
店舗改装等に伴う資産の除却・解体工事費用であります。
- ⑥店舗閉鎖損失引当金繰入額 145 百万円  
閉鎖予定店舗に係わる賃貸借契約に基づく違約金及び空家賃等についての引当金であります。
- ⑦訴訟損失引当金繰入額 78 百万円  
係争中の訴訟において、将来発生する可能性のある補償費用についての引当金であります。
- ⑧その他 192 百万円

## 2. 平成23年8月期（通期）の業績予想の修正

### （1）連結

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A） （平成23年5月13日発表）	78,200	△1,500	△1,670	△3,360	△176円95銭
今回発表予想（B）	79,227	△605	△814	△3,395	△178円82銭
増減額（B－A）	1,027	895	856	△35	—
増減率（％）	1.3	—	—	—	—
前期（平成22年8月期）実績	83,711	△1,487	△729	△1,545	△79円93銭

### （2）個別

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A） （平成23年5月13日発表）	62,800	△1,600	△1,700	△3,340	△175円88銭
今回発表予想（B）	64,320	△606	△726	△3,879	△204円31銭
増減額（B－A）	1,520	994	974	△539	—
増減率（％）	2.4	—	—	—	—
前期（平成22年8月期）実績	68,205	△1,426	△677	△1,260	△65円17銭

## 3. 修正の理由

### （1）通期連結業績予想の修正理由

前回予想を発表した時点では、東日本大震災や原発問題、世の中全体の自粛ムード等の景気への影響度が不透明で、先行き見通しが極めて予想にくい状況にありました。

従いまして、主力の飲食事業においては、5～8月の既存店売上高を前年比95%で見込み、一方で「不採算店舗についての大規模なリストラクチャリング」を急遽行う計画を策定いたしました。

しかしながら、その後売上高は少しずつ回復傾向を辿り、様々な営業施策やメニュー戦略の刷新、リストラ効果などが奏功し、当社グループの既存店売上高は、対前年比実績で5月98%、6月105%、7月103%、8月104%と順調に推移し、予想数値を大幅に上回る結果となりました。

また、店舗リストラクチャリングにつきましては、通期で店舗改装が59店舗、店舗閉鎖が95店舗の結果となりました。

これらの要因を踏まえ、売上高、営業利益、経常利益については前回予想を上回る見通しとなりました。一方、当期純利益につきましては、リストラ実施等による特別損失計上額が増加したため、前回予想を下回る見通しとなりました。

### （2）通期個別業績予想の修正理由

個別につきましても、上記の理由により売上高、営業利益、経常利益については前回予想を上回る見通しとなりました。また、当期純利益につきましては、リストラ実施等に伴う特別損失が膨らんだため、前回予想を下回る見通しとなりました。

（注）上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上